

実験の概要

モビリティイノベーションによる移動に顔認証とアプリを組み合わせ、統合的社会サービスの重点ユースケースとしてキャンパスMaaSや医療MaaS実装に向けたコンセプト検証ならびに実証実験を筑波大学を中心とする地域で実施する。

◆協議会の構成

「つくばスマートシティ協議会」を設立し、産学官が連携

〈つくばスマートシティ協議会〉

民間企業

鹿島建設(株) KDDI(株) 日本電気(株)
三菱電機(株) 関東鉄道(株)
サイバーダイナ(株) 等

大学

筑波大学
未来社会工学開発研究センター
(トヨタ自動車と筑波大学が共同で設立)
サイバニクス研究センター

自治体

茨城県
つくば市

◆地域の交通課題

茨城県は高い自家用車依存や道路実延長を背景に自動車事故対策、高齢者の移動制約等に対するモビリティの在り方が課題となっている。

◆本格的な導入に向けた検証項目、目標値

- ・キャンパスMaaS、医療MaaS：顔認証とアプリ活用による予約受付決済照合(95%以上)
- ・「つくばモデル」アプリ協力者(のべ2,000名規模)

◆実験内容

対象地域



《筑波大学及びつくば駅周辺地区》

「つくばモデル」アプリ

- ・スマートフォン向けアプリの開発・展開による移動情報の収集・共有
- ・予約・受付・決済までの新たな社会サービスの創出

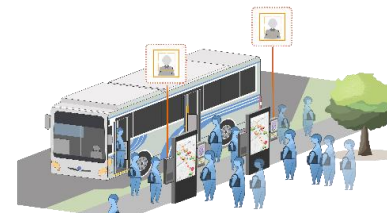


《スマートフォン向け「つくばモデル」アプリ》

公共交通の新たな社会サービス

「キャンパスMaaS」

- ・バス停の代表点に設置される顔認証を可能とするサイネージポストを活用したバス乗降時のキャッシュレス決済の実証実験、AI活用による人流予測
- ・匿名化した移動実態調査等を実現する「つくばモデル」アプリの開発
- ・乗車待ち時間を最小化するバス運行の最適化支援システムの設計検討



《乗降時の顔認証による決済》

「医療MaaS」

- ・バス乗降時の顔認証による病院受付、診療費会計処理サービス



《バス移動と統合された病院受付サービス》

- ・「つくばモデル」アプリ活用による交通弱者の乗降車支援、シェアサービス



乗車待ち情報のバスへの事前通知による乗車スペース確保や介助の迅速な提供

《交通弱者のための安全な移動》

データプラットフォーム

- ・交通流等のビッグデータを筑波大学のスーパーコンピュータ等を活用してIoT産学官データプラットフォームを構築
- ・アプリ「つくばモデル」利用協力者のデータの学生証、教職員証、マイナンバーカードへの連携と受容性検討
- ・本実証実験データの学内サービスとの連携、統合を検討(教育、学内設備)



【筑波大学 未来社会工学開発研究センター 等】